



国際会長ニュース

命の川を信じよう

第1号 2020年7月



国際会長 ジェイコブ・クリステンセン

7月の国際会長ニュースをお届けいたします。

このニュースは、1年を通して、毎月の寄稿記事や最新状況の報告によって、YMI会員の皆さまに情報をお伝えするためのものです。このニュースをお受け取りになった際には、できるだけ多くの会員の皆さまに転送いただければ幸いです。メンバーは、何も受け取らないよりも、重複して2部を受け取る方が良いでしょう。

会員の皆さまへ

自己紹介をさせてください。私はデンマークのリンケビング出身のジェイコブ・クリステンセンと申します。ランディと結婚しています、私たちは、ふたりとも引退しています。私たちの間には5人の子供と1人の孫がいます。私は、1981年にYMIに入会しました。私は、これまでにワイズダムにおいて、組織の様々なレベルでいくつかの役職に就いていましたが、今は、国際会長の職に専心いたします。

今期の私のスローガンは「命の川を信じよう」です。これは、新約聖書のヨハネの黙示録22章1-5節からの言葉です。聖霊は、「命の川」です。

私たちは皆、命の川を土台にして、人生を築き上げていく機会を持っています。「命の川を信じよう」、これが私の希望です-私たちは、皆で全人類のためにより良い世界を築くのです。

私の任期中の主題として選んだのは「価値観、エクステンション、リーダーシップ」です。私たちの運動における3つの礎石です。

私たちは、人生の中で、私たちの運動の中で、どのような価値観を持っているのでしょうか？それは、非常に大切な問題です。

自分自身と自分の価値観を知ってください。どうぞそのことについて考えてください。

エクステンションは、成長のための基本的なプラットフォームです。エクステンションは、収支のバランスや、活動の条件を改善してくれます。しかし、会員増強・維持啓発も非常に重要なことです。私たちは、入会してくれた人たちを大切にしなければなりません。

私たちは、新入会員がワイズメンの仲間になっていると感じられるように、新入会員全員をクラブに迎え入れる義務があります。

リーダーシップについては、私たちは、YMIが将来も成長できるように、常に組織の中でリーダーや才能のある人を探していることが重要です。

また、私たちは、誰もがこのリーダーの仕事はひとりではできないわけではないことを忘れてはいけません。したがって、そのために私たちは、様々な委員会とトロイカの仕組みを持っています。チームによって、私たちは、違いを生み出すことができます。皆さまが私と一緒にYMIのより良い状況を目指して旅をしていただくことを期待し、信じています。



ジェイコブ・クリステンセン
2020-21 国際会長

ボランティア賞

直前国際会長ジェニファー・ジョーンズは、ハリー・M・ボランティア賞の受賞者を発表しました。

2019-20年度、この最高の栄誉は、マレー・スティーブズ氏に授与されました。

彼は、1983年に国際IBC事業主任を務めたときに「IBC一覽」を導入して以来、これを献身的に編集し続けてきました。

スティーブズ氏は、故郷であるオーストラリアのバララットで開催されたイベントをクラブの仲間たちと一緒に見ていた時に、この発表を知りました。

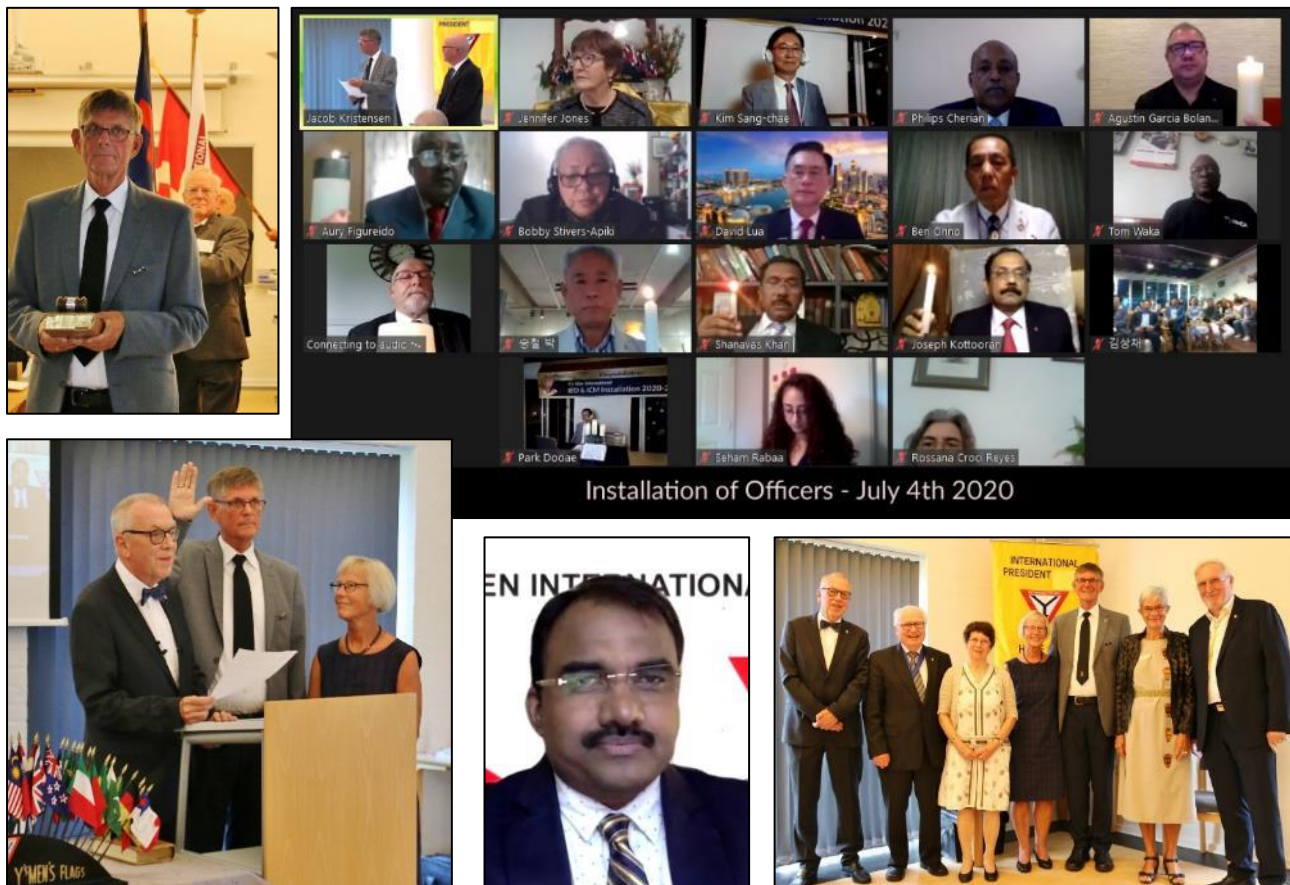
マレー、本当にありがとうございます。そして、おめでとうございます！クラブ会員に与えられる最高の賞の最もふさわしい受賞者です。



バーチャルセレモニーでの国際役員就任式 2020年7月4日

パンデミックの影響で、デンマークのオーデンセで開催が予定されていた国際大会は中止となり、通常の役員の就任式を行うことができませんでした。国際本部 (IHQ) とリンケビング・ワイズメンズクラブは、この日のためにインターネットを使った新しいバーチャルセレモニーを準備しました。以下の写真は、式典中に撮影されたもので、より多くの写真とビデオは IHQ のウェブサイトで見ることができます。

<https://www.ysmen.org/international-officers-installed/>



強調月間-7月-PR

7月は、ジェイコブ・クリステンセン会長が宣言した、YMIの広報月間です。YMIのメンバーは、一人一人が組織の広報担当者です。私たちの組織と活動の可視性は、今までになく重要なものとなっています。私たちは今、重大な岐路に立っています。逆境を乗り越えることは常に挑戦ですが、同時にチャンスともなります。私たちの目標の一つは、このような機会を探り、地域社会の向上のために活用することです。パンデミックの間、私たちは、旅行、移動、社会活動、集会、買い物など、私たちが通常の共同生活の中で当たり前のように行っているほとんどの活動が、厳しい制限に直面しています。しかし、高度なテクノロジーは、このような障害を効果的に克服するのに役立ち、私たちの距離を縮め、有効にコミュニケーションをとるのに役立っています。

限界がある中で、私たちは、最前線の医療従事者に援助を与え、認識することで、地域社会の垣根を越えてきました。私たちは、社会における私たちの存在と価値について、良い印象を与えてきました。

私たちは、私たちの価値を維持するための努力を継続する必要があります。そのためには、人類への愛という共通の目標を持って、より多くの小さなクラブを設立しなければなりません。詩人ルネ・ラズリが「混沌の中に愛の神殿を建てよ」と書いたように。

Tell a good story.



「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」



IHQニュース

国際本部(IHQ)は、新たな年度を迎え、わくわくしています。会員への奉仕に献身することを継続していきます。まず、退任されたクラブ役員、部長、理事、国際事業主任、地域会長の皆さまのご支援に感謝いたします。皆様のご協力は、私たちの活動にとってかけがえのないものでした。

7月初旬には、国際会長、国際執行役員、国際議員の初のオンラインによる就任式、2018年～2020年の2年度の活動の振り返りを行い、新しい年度をスタートさせました。スタッフチームは、コンテンツの調査・開発からプロモーションの手伝い、技術的な運営管理まで、様々な面でフルに参画しました。イベントの動画は、ウェブサイト www.ysmen.org/live でご覧いただけます。

7月の強調月間である「広報」についてのチラシを作成し、様々なチャネルを利用してクラブレベルに配布しました。これは、以下からダウンロードできます。

<https://drive.google.com/file/d/17P5K1ignrhmZQr6EBJkXIACggqOs7wCq/view>

今月はまた、昨年度の会員数統計の確認と最終決定、各種国際献金の記録とクロスチェック、年度監査のための会計報告の準備に大忙しです。また、8月初旬に開催される初のオンラインによる国際議会の計画も立てているところです。

特に、区と地域が青年代表(YR:ユースリプレゼンタティブ)を任命する意欲を高める努力が大きな成功をもたらし、現在では、すべての地域に、AYRが、大多数の区にRYRが任命されていることを嬉しく思っています。青年の地盤を育成するためのご支援に感謝します。

スタッフはまた、地域会長、区理事、国際事業主任、国際執行役員との緊密な連携を保ちつつ、様々な委員会やタスクフォースへの支援を続け、国際会長が主導するプロジェクトの実施や、要請に応じて国際会長の重点施策の展開や目標達成を支援しています。

知っていましたか？

1925: 米国・マサチューセッツ州ローレンスの当時の国際書記長であるヘンリー・グライムスの自宅に、初の国際本部事務所が設置

1963年: ローレンスからイリノイ州ダウナーズグローブに移転

1965年: イリノイ州のオークブルックビルに移転

1973年: ジュネーブの世界YMCA同盟内に移転

1995年: ジュネーブYMCA内に移転

2016年: チェンマイにサテライトオフィスを設置

IHQ スタッフ



国際書記長
ジョース・ヴァルギース



管理補佐
ジェームズ・オレ



管理補佐
トレーシー・モビグリアッティ



会計担当
アミン・ベン・マスローラ



ユースプログラム補佐
プラピンポーン(トング)・
フォンタドシリクル